

北海道でも同窓会を！

北海道民医連勤医協中央病院 呼吸器内科 剣持 喜之 (16期生)

16期卒業の剣持です。もともと北海道出身であったことと、学生時代に実習で経験した北海道の医療過疎への興味から2002年の卒業後、札幌にある北海道民医連勤医協中央病院で初期研修を開始しました。ちょうど総合診療部が立ち上がった年でもあり、2年間の初期研修は総合診療病棟を中心としたローテート研修で行いました。その後2年間、道東の街、釧路に赴任し一般内科として後期研修を行いました。釧路周辺で2つしかない呼吸器内科医のいる病院の1つであり、沢山の呼吸器疾患の患者さんに会ったということもきっかけになりましたが、急性期治療から緩和ケアまで幅広い知識を必要とされ、また改善しない病気も多いため罹患後の生き方についても患者さんと二人三脚で考えていく呼吸器内科に魅力を感じ、専門科を呼吸器内科にすることを決めました。5年目からは再び札幌の勤医協中央病院に戻り、呼吸器内科としての研修、実務と後輩の指導にあたっています。

現在所属している勤医協中央病院の特徴のひとつとして、総合診療部の存在があります。400床ほどの規模の病院ですが、うち50床が総合診療部のベッドとして使われています（総合診療病棟として42床、呼吸器内科病棟との混合病棟に約10床）。初期研修医だけでなく後期研修医にとっても、ひとつの病棟で、気心の知れた指導医、スタッフに囲まれながら様々な疾患の患者さんの治療にあたれることは大きな経験になっており、家庭医や総合医を目指す研修医だけでなく、プライマリーな力量を保ちながら専門科を持ちたい医師も

研修を行っています。またもうひとつの特徴として、差額ベッド料金を徴収しない病院ということもあり、生活保護受給者や老々介護の高齢者などの生活に困難を抱えている患者さんの割合が大きいです。入院時から患者さんの生活背景を踏まえ、治療や退院調整を行っていく必要があるため、看護師をはじめとしてMSW、リハビリ技師など多職種を交えてのカンファレンスを定期的に行っており、チーム医療を強く実感できます。

ここ数年のうれしい傾向として、琉球大学の後輩が研修医として勤医協中央病院に来てくれています。この4年間で3人の後輩ができました。身近にいる同門の後輩は自分と母校をつないでくれる大きな存在となっています。学生時代は北海道出身、北海道で学生生活を送った先生と学生で「道産子会」を年に数回行っていました。今度は是非北海道で、琉球大学医学部卒業生の会を開きたいです。



学生時代からの趣味のバンド(ドラム)は今も続けています。
全員同じ病院のドクターです。